

平成十三年度 市内歴史探訪記

平成十三年八月二十六日（日）、別府史談会市内探訪が行われ、当日は三十二名が参加した。

午前九時三〇分から別府大学記念館（旧博物館、昭和五十二年五月竣工）二階講堂にて、オリエンテーション、および後藤重巳別府大学教授（別府史談会副会長）から別府大学収蔵古文書、慶長から江戸時代、明治までの解説を受けた。

細川越中守忠興ただちかの検地帳（別府立石、慶長時代）、田尻村の年貢割付状、村請覚え、年貢皆済目録みなせき（以上三つを「地方三帳」という）。

そのほか、「村明細帳（天領、小坂、内成）」は「村鏡」と言われるように、村の内容が手に取るように記載されている。宗門改帳あつたかちょうは宗門の記載だけでなく、現代の戸籍簿を兼ねている文書である。庄屋の「御用留」ごようどまりは庄屋の

メモ帳である。「庄屋日記」には一年間にわたる庄屋の公式記録が記されている。

珍しいものとしては「明治四十四年 大分町議会議事録」が収蔵されている。

約一時間にわたる後藤重巳教授の説明の後、大学から西南方向へ徒歩で移動し、三十三号館（別府大学・付属博物館、歴史文化総合研究センター、平成十一年三月竣工）にて、本田光子文化財学教授および志賀智史ちか付属博物館学芸員から説明を受ける。

本田教授からは発掘物のレントゲン照射実験、図面や日本画の模写、表装などについての説明、志賀学芸員からは博物館展示物の説明、顕微鏡による漆器の塗り方から製作年代、製作場所を確定する作業を見学した。

別府大学付属博物館の展示物

(平成十三年八月現在)

水河時代の自然とくらし (旧石器時代)

ナイフ形石器 (大野郡大野町 駒方遺跡)

細石核と細石刃 (大野郡三重町 牟礼越遺跡)

森と大地の恵み (縄文時代)

石鏃・有孔石製円板 (玖珠郡九重町 二日市洞穴)

里を耕し高原を開く (弥生時代)

吹上遺跡 (日田市) 出土大陸系摩製石器群

首長墓の展開とその広がり (古墳時代)

亀塚古墳 (大分市) 遠景

八幡神 (古代)

宇佐の放生会と行幸会

虚空蔵寺 (宇佐市山本) 跡出土瓦とせん仏

山への開発と祈り (古代・中世・近世)

仁聞菩薩像 (両子寺所蔵、国東町、安岐町)

天念寺 (豊後高田市) 修正鬼会

千燈寺 (国見町) 鬼会面

永保三年 (一〇八三) 年銘 経筒 (津波戸山出土)

現山香町)

その他の展示物 (略)

尚、別府大学附属 博物館だより No. 43 (後藤重巳編

集二〇〇〇年三月) に別府大学附属博物館の「まとめ現

況」上代文化博物館から附属博物館へ」と題したパン

フレットが刊行されているので紹介しておきます。



本田光子教授の説明を聞く

〔写真提供－矢島理事〕



別府大学記念館前にて